

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100217		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム(1階)		
所在地	可児市桜ヶ丘6-73-11		
自己評価作成日	令和5年12月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossvoCd=2193100217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切にしましょう」という運営理念を職員全員が大切に、利用者様には毎日ゆったりとした時間を過ごして頂いております。また春には向かいの道路には桜が満開になり、風景を散歩したり、東屋に出て楽しんだりして頂いております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、大型の住宅団地の中心部にあり、春には桜並木の街路樹を眺めることができる。広い敷地の中には東屋が設けてある。コロナ禍で遠方への外出は自粛しているが、日常的に庭へ出て利用者同士がおしゃべりを楽しんでいる。外部評価の自己評価作成については、職員が専門職としての質を高める姿勢で、項目ごとに日常業務を振り返りながら作業を行っている。コロナ禍の影響もあり、人手不足も否めないが職員間で互いに協力し合い、利用者が日々、安心して笑顔ある生活ができるよう努め、常に利用者ファーストでの支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員が共有し意識しながら日々実践につなげるように努めている。	運営理念は「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切にしましょう」とし、玄関や職員の目につきやすい場所に掲示している。朝礼や職員会議で日常の支援を振り返り、常に理念を意識して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の方針が変更され令和6年以降はボランティアの受け入れも可能となるので積極的に利用したい	自治会に加入し情報を得ながら、地域の活動に参加している。事業所前のスーパーには、利用者と共に食材の買い出しに出かけている。利用者は散歩時には、近隣住民と挨拶を交わしており、コロナ感染拡大状況を見ながら、徐々に地域との交流を再開したいとしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は運営推進会議を開催し始め、取り組み内容や現状について報告し、委員の方の様々な視点から意見や助言をいただきサービス向上に活かす。	今年度の運営推進会議は、9月から行政の参加を得て実施している。11月から他の構成員を招集して本格的に対面での開催となった。利用者の様子を分かり易くスライドで報告し、意見や要望など出してもらい運営に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り、現場の実情等を伝える機会を作るよう努めている。	市担当者から地域の取り組みや高齢福祉についての情報提供を受け、参考にしている。事業所の現状について報告し、課題点を相談しながら協力関係を築いている。行政主催の会議や研修に参加し、利用者サービスにつなげている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人代表者主催の研修が月に2回開催されており職員全員に受講の義務がある。身体拘束未実施減算会議を3か月に1度開催し不適切なケアの周知と身体拘束についての知見を深めている。	「身体拘束廃止委員会」を定期的に開催している。月2回、法人主催の研修があり、職員は年度内に必ず2回受講している。1回は身体拘束についての基本を学び、2回目は事例を挙げてディスカッション形式の研修としている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修やマニュアルを活用している。虐待緊急通報フローチャートを掲示し、虐待防止に努めている。不適切なケアが行われないようお互いに注意し合える環境づくりに取り組んでいる。	虐待防止マニュアルを作成し、職員会議で学習を重ねている。職員間で不適切なケアのないよう注意し合い、虐待防止への意識を高められている。管理者は、常に職員の表情にも目配りし、コミュニケーションを図りながら、ストレスからくる虐待を見逃さないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者とスタッフは日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び理解し、必要と考えられる利用者がそれらを活用できるように支援していかなければならないと考えている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類を基に説明を行い、不明な点がないよう細かく確認しながら契約を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話を通じて利用者家族様より居室担当者と管理者で意見を頂いている。また年2回のアンケートに答えて頂き意見を、要望を反映できるように努めている。	3ヵ月毎に「さくら通信」を家族に送付し、利用者の様子を報告している。家族の来訪時に意見を聞き、要望に添えるよう努めている。利用者支援を優先しているが、家族との信頼を深めるためにも、通信発行回数を増やすことを検討している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで意見を吸い上げ、速やかに検討、対応を行っている。事務局の担当者にも相談するなどをして運営改善につとめている。	管理者は、業務に支障が出ないよう現場に入ることもあり、職員の要望や意見を直接聞いている。職員の声や現状を法人本部に挙げるが、理解が得られないことがある。利用者の支援が滞ることのないよう、職員間で協力し合い対応している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	ホーム査定や個人評価を実施し給与に反映している。資格に応じた社内外の研修や取得制度も利用できモチベーションアップに努めている。	法人として、労働規程や就労環境等が整備されているが、現在、人手不足で休憩時間が取りづらい時もあり、職員間で互いに調整しながら、乗り切っている。代表を交えて、更なる働きやすい職場環境の検討に期待したい。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ法人主催のリモートによる基礎研修を行い、理解度を示すレポートを書くことで日々の業務に活かすことができるように支援している。	法人主催の研修がある。リモート研修が多く、受講後のレポート報告を課している。ほとんどの職員が有資格者であるが、さらにステップアップの資格取得を勧め、職員のモチベーションに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所グループの他施設のリモートであるが、基礎研修を通じ具体的な事例の体験された話等を聞く機会からスタッフの資質の向上、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力や自尊心を尊重し、できることは積極的に役割を持って頂いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む生活を送るための支援を把握し提供することにより、できるだけ本人の意向に沿えるよう努めている。	入居時のアセスメントを参考に、利用者の思いや意向を職員間で共有し、生活歴や家族からの情報から、その人の性格や特性を把握するよう努めている。入居後は、個別ケアを通じて本人の希望を聞き、その要望に応える支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に合わせた介護計画をケアマネ・スタッフと話し合い、本人と家族の要望を取り入れ作成している。また状況の変化があれば、その都度見直している。	2ユニットそれぞれのケアマネジャーが、日々の個別記録をもとに、医師や職員の意見、利用者・家族の要望を聞きながら、介護計画を作成している。利用者の状態に変化が生じた場合は、計画の見直しをしている。	介護計画作成時には、家族の要望や意見を事前に聞いている。出来得るならば、家族と日程を調整したり、面会時に併せて、利用者の状態とケア状況を家族に見てもらい、意見交換しながらの計画作りに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の行動や言動を記録し、スタッフ間で情報を共有している。ケアや接し方の見直しに活かしている。	個別記録は、利用者の状態を記録するだけでなく、職員の感じたこと、新たに把握した事などを手書きで分かり易く記録している。それらを職員間で共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の状況変化に対して柔軟に取り組むことができるように心掛けている。	法人グループの理学療法士が週1回訪れ、利用者は機能回復訓練、認知症進行予防のリハビリ等の指導を受けている。また、定期的に理美容師が来所し、利用者が利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の意向に沿って支援が行えるように努めている。コロナ禍でできなかったことも今後は積極的に取り組む考えを持っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	徒歩10秒の主治医であるため月2回の訪問診療だけでなく急変 即応が必要な場合でも対応を受けている。	かかりつけ医については、契約時に説明し利用者、家族が選択している。現在は、全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回往診を受けている。協力医が隣接しており、急変時の対応もある。訪問看護も週1で訪れ、24時間の医療連携体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し提出している。退院時には利用者様の現状を把握し、病院からの情報を得て対応している。	入退院時の対応は管理者が行っている。家族の意向を尊重し、受け入れ病院と情報交換しながら本人・家族の安心につなげている。医療機関とは、日頃から関係づくりに努めており、入退院の対応がスムーズにできている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期における意向は入所時にリスクと施設指針を説明した上で伺い、状態、意向変化時に再確認し対応を検討する体制をとっている。都度、話し合う機会を設け入居者様、ご家族様に後悔のない対応を心がけている。	契約時に、重度化や終末期についての事業所の指針を説明し同意を得ている。機会あるごとに、利用者と家族の意向を確認し、希望に添えるよう体制を整えながら、利用者・家族が納得できる支援の実践に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人主催の介護技術知識の基礎研修に参加する。応急手当や初期対応のマニュアルを作成しマニュアルに沿って行動できるよう準備をしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害の想定を変え、避難訓練を行っている。避難訓練実施報告書を作成し問題点、改善点を報告し、次回の訓練につなげている。	年2回、消防署指導の下で夜間想定を含めた火災訓練を実施している。実施後は、補強や改善が必要な部分について話し合い、地震、水害についての対策も検討している。運営推進会議で、災害対策についての課題を挙げている。	事業所が避難訓練を実施する際には、近隣に知らせて地域の理解を得たり、地域の防災訓練に参加して、双方で防災意識を高め合うなど、地域との協力関係作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は全個室でトイレも完備しているのでプライバシーは守られている。言葉掛けが敬語にならない時があったため言い換えが必要。	運営理念を基本に、常に利用者一人ひとりを尊重し、その人の意思決定を活かせる支援に取り組んでいる。職員は、声かけや言葉遣いが馴れ合いになることのないよう気を付けている。居室には、トイレと洗面台があり、排泄や整容時のプライバシーが確保できる環境にある。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を伝えやすくなるように日々のコミュニケーションを深め信頼関係を築いている。ケアを行う際には、ご本人に決めて頂くようにしている。決めきれない方には本人にとって良い決断となるようサポートする。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが誘導し体操などを行う。自然発生的に合唱が始まることがあるので楽しんで歌っていただく。一人ひとりのペースを大切にし、自由に好きな事、やりたいこと等、希望に沿って支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器洗い、食器拭き等にもスタッフと一緒にいき、食べ物の作り方や昔よく食べた物等を教えて頂き会話を楽しんでいる。	朝食は事業所で作り、昼・夕食は隣接事業所の厨房で調理され、利用者の状態に合わせた食事形態で提供している。朝食の食材買い出しやおやつ等の買い物は、利用者も一緒に行き、好みのものを購入するなど、楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況や嚥下状態に合わせ医師、看護師と相談しながら形態を変え食事を提供している。体重の確認をし、食事量の調節を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯をはずし、うがいをしお手入れ、清潔保持を行っている。歯磨きのできる方には自己にて行って頂き、義歯の方にははずして義歯を洗って頂いている。今後は訪問歯科の利用も検討したい。	居室には洗面台があり、利用者は、食後の歯磨きや義歯の手入れ、うがいの口腔ケアを実践している。利用者の状態に応じて、職員が見守りや補助をしている。訪問歯科の利用を検討中である。	

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録に記入し排泄状況とパターンを確認している。記録の情報をもとに時間による声掛けや雰囲気を感じ取り誘導を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する機会は毎日あり、週2～3回入浴していただけるよう支援している。入浴剤、ゆず湯等変化をつけている。本人の希望によるシャワー浴を実施している。本人の体調により清拭等を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの季節に合わせた生活習慣や、その時々状態に応じ休息したり、安心して気持ちよく眠れるようリネン交換を行っている。高齢になると日中の睡眠も重要と考え適度に実行している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬のことを理解し、誤薬のないように服薬時には、日付・名前を声に出して服用して頂いている。	運営推進会議に薬剤師の参加があり、薬に関する説明を聞くことができる。利用者の薬は、担当職員が責任を持って管理し、誤薬や飲み残しが無いように注意を払い支援している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器洗い、食器拭き、掃除等一人ひとりが得意な手伝いができるよう支援している。月ごとの行事を取り入れて楽しみ事の支援をしている。	利用者の生活歴から把握した個々の楽しみや出来る事、これまで行ってきた事などを、今の生活に役割りとして活かせるよう支援している。常に、職員が感謝と労いの声掛けをし、利用者のやりがいと自信に繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが終息したわけではないが感染対策をして食材の買物に同行していただく。近くの公園に散歩にお連れしたい計画している。	コロナ禍で、遠方への外出は自粛しているが、天候に応じて、事業所周辺を散歩をしたり、テラスや中庭の東屋で、外気浴を兼ねた飲食をしている。今年度は花見に出かける事ができ、今後も、感染予防対策をした上での外出を検討している。	

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーション費としてご家族から預かっている。ご本人の希望に応じての使用手伝いや、ご家族に確認連絡をして必要なものを持参して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、スタッフが電話をかけ本人と話す機会を設けている。ご本人様にはイスを用意してゆっくりと話して頂く。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節を表す飾り付けをしている。廊下には季節ごとに行う行事の様子の写真等を展示し心地よさを演出している。	共用空間は広く、大きな窓から外の景色を眺めることができ、開放的である。廊下幅も広く歩行リハビリに活用している。職員と利用者の共同作品を掲示している。清潔で心地よい環境であり、健康器具も備えてある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い利用者様同士に隣に座って頂き会話を楽しんでもらえるように工夫している。廊下の端にベンチがあるので状況に応じて移動したりと思い思いに過ごせるように配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や手作りされた物、季節を表す飾り付けをし、その人らしく居心地良く暮らせるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がり時、歩きやすい位置に歩行器を置いたり、動線上に危険がないか配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100217		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム(2階)		
所在地	可児市桜ヶ丘6-73-11		
自己評価作成日	令和5年12月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営の方針としては、個別の介護計画を作成し、利用者の立場にたった利用者が必要とする適切なサービスを提供する、サービス内容、提供方法についてはわかりやすく説明する、適切な介護技術を持ってサービスを提供する、常に提供したサービスの質の管理評価を行うといったことです。目的としては、認知症によって自立した生活が困難になった方々に対して、安心と尊厳のある生活を守りその人がその人らしく最期まで快適に暮らせるよう支援することです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2階)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示している。申し送り、会議の時等に目に入るようにし意識することにより、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの訪問やホーム行事に地域の方々に参加して頂くようにしていたが、現在のコロナウイルス感染防止の為イベント参加等は行っていない。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は運営推進会議を開催し始め、取り組み内容や現状について報告し、委員の意見や助言をいただきながらサービス向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居の相談や状況報告、待機者の相談を定期的に地域包括支援センターや市役所福祉課におこなっている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を定期的におこなうようにして身体拘束をおこなわないケアに日々取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修やマニュアルを活用している。虐待緊急通報フローチャートを掲示し、虐待防止に努めている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護に関する研修を受け理解を深めている。利用者が必要な方がいれば利用できるように支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類を基に説明を行い、不明な点がないよう細かく確認しながら契約を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話を通じて利用者家族様より意見を頂いている。また年2回のアンケートに答えて頂き意見、要望を反映できるように努めている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで意見を吸い上げ、速やかに検討、対応を行っている。事務局の担当者にも相談するなどをして運営改善につとめている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	ホーム査定や個人評価を実施し給与に反映している。資格に応じた社内外の研修や取得制度も利用できモチベーションアップに努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモートによる基礎研修を行い、理解度を示す感想書を書くことで日々の業務に照らし合わせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	閉鎖、独自のにならないよう他施設とのパイプ役となり、情報収集、交換を行い、スタッフへ伝達することで他施設の現状を把握しケアサービスの向上に努められるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力や自尊心を尊重し、できることは積極的に役割を持って頂いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む生活を送るための支援を把握し提供することにより、できるだけ本人の意向に沿えるよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で話し合い意見交換をしている。また家族との話し合いをして個別の具体的な計画、分かりやすい計画を作成するよう努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主体となっている。スタッフ間で声を掛け合い情報の共有になるように努めている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の状況変化に対して柔軟に取り組むことができるように心掛けている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の意向に沿って支援が行えるように努めている。コロナ禍でできなかったことも今後は積極的に取り組む考えを持っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の訪問診療を受けており、夜間や休日でも速やかな対応が出来る様に支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は状態報告とサマリーによる情報提供を行っている。また入院中は定期的に状況確認をし、医療機関、家族と連携し、早期退院を支援している。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期における意向は入所時にリスクと施設指針を説明した上で伺い、状態、意向変化時に再確認し対応を検討する体制をとっている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内における基礎研修に参加するようにし勉強を行っている。応急手当や初期対応のマニュアルを作成している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害の想定を変え、避難訓練を行っている。避難訓練実施報告書を作成し問題点、改善点を報告し、次回の訓練につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛けを敬語で行うようにしている。プライバシーに関わる話は人前でないように心掛けている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を伝えやすくなるように日々のコミュニケーションを深め信頼関係を築いている。ケアを行う際には、ご本人に決めて頂くようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、自由に好きな事、やりたいこと等、希望に沿って支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、食器拭き等にもスタッフと一緒にいき、食べ物の作り方や昔よく食べた物等を教えて頂き会話を楽しんでいる。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況や嚥下状態に合わせ形態を変え食事を提供している。体重の確認をし、食事量の調節を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔内の観察をし、清潔を保ち、異常に気づいたら管理者、家族に連絡を行っている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録に記入し排泄状況とパターンを確認している。記録の情報をもとに時間による声掛けや雰囲気を感じ取り誘導を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤、ゆず湯等変化をつけている。本人の希望によるシャワー浴を実施している。本人の体調により清拭等を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの季節に合わせた生活習慣や、その時々状態に応じ休息したり、安心して気持ちよく眠れるようにリネン交換を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状をファイル化し、服用している薬がすぐに確認できるようにしている。利用者様ごとの服薬一覧を作成している。服薬による症状変化がある時は、主治医に相談をし指示を仰いでいる。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器洗い、食器拭き、掃除等一人ひとりが得意な手伝いができるよう支援している。月ごとの行事を取り入れて楽しみ事の支援をしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外食、遠出は控えているが、近所の散歩、買い物の付き添いで外の空気に触れられるように支援している。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーション費としてご家族から預かっている。ご本人の希望に応じての使用手伝いや、ご家族に確認連絡をして必要なものを持参して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、スタッフが電話をかけ本人と話す機会を設けている。定期的に通信書で状況報告を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節を表す飾り付けをしている。廊下には季節ごとに行う行事の様子の写真等を展示し心地よさを演出している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い利用者様同士に隣に座って頂き会話を楽しんでもらえるように工夫したり、状況に応じて移動したりと思い思いに過ごせるように配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や手作りされた物、季節を表す飾り付けをし、その人らしく居心地良く暮らせるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできることを生かせるようにベッドの配置や椅子を置き、つかまって歩くことができるように工夫し 安心、安全に過ごせるような環境作りに努めている。		